TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 10 月 6 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子
ゲスト：古川豪太（RSK 山陽放送記者、障害者雇用を取材）

検証テーマ： ポンペオ国務長官の動き、北朝鮮の動き、インドネシア地震と自衛隊
【特集】沖縄県知事に玉城デニー氏、【特集】障害者雇用

報道トピック一覧
・台風 25 号
・あす北日本で防風
・新潟で 36℃歴代最高を更新
・ポンペオ国務長官の動き
・北朝鮮の動き
・大阪市で住宅火災、2 人死亡
・インドネシア地震と自衛隊
・北海道地震から一ヶ月
・西日本豪雨災害から今日で三ヶ月
・奈良で秋の風物詩「鹿の角切り」
・日本人の作品に米コミック対象
・東京築地市場が今日で営業終了、83 年の歴史に幕
・【特集】沖縄県知事に玉城デニー氏
・【特集】障害者雇用
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨
・オープニング：結論→特に問題なし
　番組の冒頭で金平キャスターが「えー、今年のノーベル平和賞に戦時下の性暴力の根絶に力を尽くした 2 人が選ばれました。そのうちの一人は IS、イスラム国による性暴力の直接の被害者です、世界的な広がりを見せた Metoo 運動が受賞の後押しとなったとの声もあります。日本にとっては全くの他人事でしょうか。」と述べていた。このコメントのシーンは 20 秒で、ノーベル平和賞や Metoo 運動について言及されていたのはこのシーンだけであり、実際に Metoo 運動が受賞の後押しとなったのかは今回の報道特集からは不明だったが、放送法上は特に問題は見られなかった。

・ポンペオ国務長官の動き：結論→特に問題なし
　アメリカのポンペオ国務長官は明日、平壌で行う予定の北朝鮮の金正恩党委員長との会談で二回目の米朝首脳会談の日程と場所について大筋での合意を目指したいとの考えを示したこと、ポンペオ国務長官は午後一時過ぎ羽田空港に到着したあと安倍総理・河野外務大臣とそれぞれ会談する予定であり会談ではポンペオ長官の訪朝を前に北朝鮮の非核化に向けた交渉の他、拉致問題について日米で対応をすり合わせるものと見られているとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 58 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮の動き：結論→特に問題なし

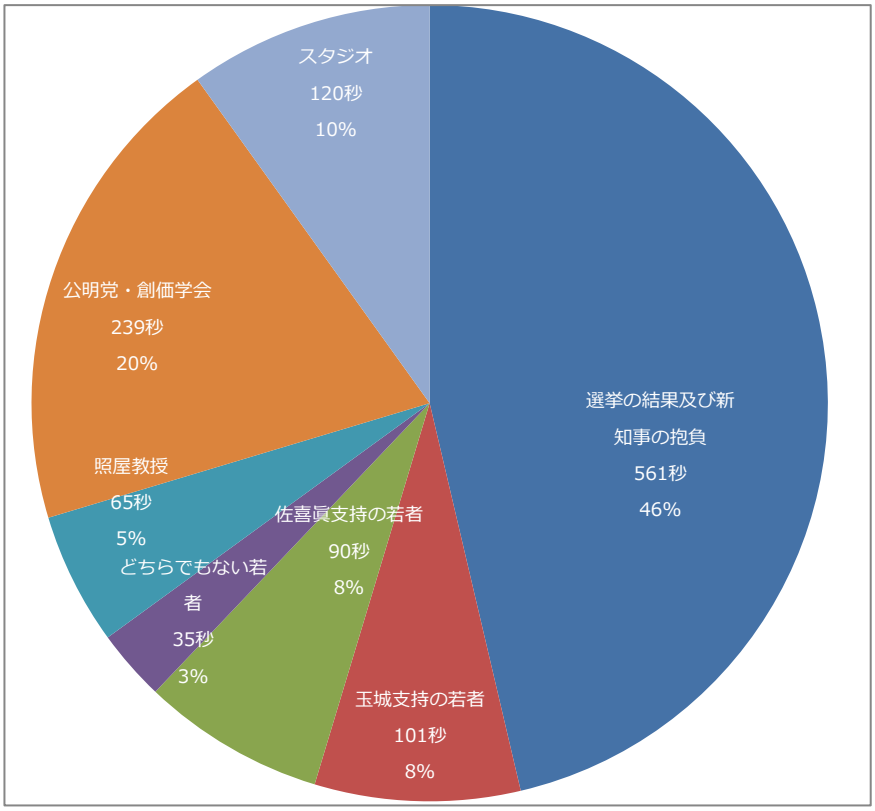
北朝鮮のチェ・ソンヒ外務次官が昨日、朝鮮半島問題を担当する中国の孔鉉佑外務次官と会談したこと、今日は北京から北朝鮮、中国、ロシアの三者協議が予定されているモスクワに向け出発したことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 46 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・インドネシア地震と自衛隊：結論→特に問題なし

インドネシアのスラウェシ島で発生した大地震と津波の被災地を支援するため、自衛隊機が 6 日現地に到着したこと、テント 500 張や発電機 80 台、浄水器 20 個など合わせておよそ 9 トンの緊急援助物資が自衛隊の輸送機で空輸されたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 69 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】沖縄県知事に玉城デニー氏

沖縄県知事選挙について、若者や公明党・創価学会の動きに焦点をあてて振り返る特集だった。今回の特集は選挙結果および玉城新知事の抱負について触れられた場面、玉城氏を支持した若者、佐喜眞氏を支持した若者、どちらでもない若者のそれぞれが取り上げられた場面、沖縄国際大学の照屋教授へのインタビュー、公明党・創価学会が取り上げられた場面、VTR をうけてのスタジオでのやり取り、という場面に大別された。この特集に当てられた時間は 1241 秒で、それぞれの場面への時間配分は以下の通りであった。



選挙の経過及び新知事の抱負については、当選後初めて登庁し知事としてはじめての会見での以下に朱記した場面取り上げられた。

ナレ「県知事選に勝利した玉城デニー氏が初めて登庁。県の職員や県民など、数百人が出迎えた。」

ナレ「当選証書を受け取り、笑顔を見せる玉城新知事。」

金平「眠れましたか？」

玉城氏「はい、たっぷり」
ナレ「副知事から引き継ぎを終えた後、さっそく初めての公務として、台風に備えた対策本部の会議に出席した。沖縄県庁も災害対策に当たる職員以外は業務停止とし、この日予定されていた知事から職員への訓示は中止となった。」
ナレ「知事として初めての記者会見に臨む。」
玉城知事「ハイサイ　グスーヨー　チューウガナビラ。県民の皆様本日をもって、沖縄県知事に就任いたしました玉城デニーです。いばらの道ですが、そこにいばらがあれば、当然踏みしめていく、踏み越えていくという覚悟は必要ですし、その茨をかき分けていって、その先に本当の安心・安全の県民が求めている未来が必ず見えてくるということを信じて、私は突き進んでいきたいというように思います。」
ナレ「あわただしい船出となった玉城新知事に話を聞いた。」
金平「なられた実感というのはどうでしょう？」
玉城知事「県庁にきてたくさんの皆様に迎えられて、やはりこう、緊張しましたよね。で、証書を受け取ってから、少しひしひしとその重みがなんかこう湧いてくるようなそんな気持ちですね。」
ナレ「選挙戦では若い支持者の動きが大きな力になったと振り返る。」
玉城知事「ほんとにそういう若い人たちが、自分たちでとにかく何かしたいんだと。SNS を使いながらそれをどんどんどんどん自分たちで企画をして、これもできるこれもできるとという感じでやってきたんですんね。あの、あの自主性を持ってきていただいたこと、それをまたお任せしたこと。これは非常に良かったと私は思いますね。」

また、当確が判明した夜、玉城デニー氏が「誰一人としてこの取り残さない置いてけぼりにしないということを選挙戦でも訴えました。できるだけ多くの方々がこの未来の沖縄県作りに参加をしていただきたい。佐喜眞さんにもその気持ちで一緒にできることがあったら、一緒に頑張っていただきたいとわたくしはそうお願いします。」とコメントするシーンも取り上げられていた。

加えて選挙結果を承けての菅義偉官房長官の「選挙というのは地方公共団体の首長選挙について、様々な施策、このことについて主張が行われるものであって、その結果について政府としてコメントはすべきじゃない。いつもの首長の選挙と同じという風に考えております。」というコメントが取り上げられていた。

また、金平キャスターが新知事としての意気込みをインタビューした以下に朱記した場面も取り上げられていた。

ナレ「政府は普天間飛行場の返還について、辺野古への移設が唯一の解決策だという姿勢を崩していない。辺野古沿岸の埋め立て承認を撤回した沖縄県に対して、法的手段をとる構えだ。玉城新知事は新基地建設をどう阻止するというのか？」
玉城知事「これだけ選挙でも新基地建設はダメだというようなことが、度重ねて表明されているにも関わらず、日本政府がとっているこの民主主義を破壊するような違法な工事のやり方というのを我々は認められないということを、アメリカや世界に対して、我々は民主主義国家の一地域のその自治体として、こういう風に判断をし、住民もそういうふうな声を出していると私たち沖縄県民がとっているこの考え方と手法はすべて皆さんと共有できる民主主義の普遍的な価値に基づいてものであるということをしっかりと訴えていって、その世界の世論を私たちの味方につけたいという風に考えております。」
金平「これから総理とか官房長官とか、あるいは防衛省、防衛大臣とか、あるいは沖縄担当大臣と向き合って行かなきゃいけないでしょ。これは対話のチャンネルはなるべく早く作ったほうがいいですよね。」
玉城知事「はい。もう私が知事に今日就任しましたので、本当にその日程が可能な限り早くお会いして、これからはもう対話ですよと司法で解決できるとは思えませんとそれはご承知の通りだと思います。ならば対話です。

徹底的に対話を尽くしてアメリカともぜひ国と国で対話をしてくださいということをやっぱり求めていくしかないと思うんですね。」
金平「玉城デニーさんはお父様がアメリカの人でいらっしゃいますしね、ある意味で言うと、アメリカ軍基地があったからこそ今、デニーさんはいらっしゃるんですよね。そういう意味で言うと、沖縄の歴史を体現している方だという風に思うんでね。その人が沖縄の県政のトップになられたわけですから」
玉城知事「沖縄の県民は玉城デニーという人間を知事に選ぶことによって、沖縄の多様性の可能性をしっかりこう、よし頑張って見つめていこう実現しようということを確かめようというそのスタートラインに立ったんだと思うんです。私は戦後の世代の多様性、価値観を体現するそのまあ象徴的な存在であろうと思うんですね。ですから生まれがいいとか、家柄がいいとか、お金があるとかいう、ことにとらわれる時代ではなく、これからはやはり一人一人の尊厳が生かされ、伸ばされ、それを共有できることが本当の私たちの社会の未来をそこから作っていけるんじゃないかなという可能性につながっていくとおもうんですね。やりがいがありますよ。本当に。」
　玉城候補を支持した若者については以下に朱記したシーンが取り上げられていた。
ナレ「おそろいの T シャツを着て、カチャーシーを踊る若者たちの姿があった。玉城選対とは別に、玉城氏を支援してきたグループだ。リーダーの徳森りまさん。翁長雄志前知事が亡くなった日の夜、病院の前にいた。翁長氏を乗せた車に向かい」
徳森氏「知事、ありがとうございました。」
ナレ「声を上げたのは徳森さんだった。」"
徳森氏「命を懸けて、沖縄の為にずっと頑張ってこられた方だったので、もう感謝しかなかったので、その思いを伝えたくて、」
ナレ「徳森さんら若者グループはデニーナイトという DJ イベントを開いたり、SNS で応援動画を発信したりして、翁長氏の遺志を継ぐ玉城氏の支持を呼びかけた。今週水曜日、その若者グループに話を聞いた。」
玉城氏を支援した若者グループ「選対が思いつかないことばかりをやった。」
玉城氏を支援した若者グループ「怒られてはやめるみたいな」"
金平「選対から怒られたことっていっぱいあった？」
玉城氏を支援した若者グループ「もうたくさんありました。山のように。お前らのせいで負けるっていっぱい言われましたよ。」
玉城氏を支援した若者グループ「選挙は堅苦しいってイメージがついちゃってるから、なんかほんとに伝えたいことってのがあるじゃないですか、だからそれを伝えるにはまず、楽しくやってないと誰も見ないから、」
　佐喜眞氏を支援したり佐喜眞氏に好意的な若者については以下に朱記したシーンが取り上げられていた。
東郷健太郎さん（２１）「沖縄県の選挙の争点がやっぱどうしても、そういう基地というところに大きく振られてしまうので毎回、そういうところで、若い人は少し疲弊しているのを感じる部分もあったりして、」
嘉陽宗一郎さん（２３）「やっぱりこう生まれたときから基地がある世代と、もともと自分たちの土地が接収された世代、戦争を経験された世代、ですから相当のギャップみたいなものはあるのかな。基地イコール戦争というようにとらえられている先輩方も多くいらっしゃるのでその辺は強いギャップも感じますね。」
ナレ「基地だけが沖縄の問題ではないと話す学生もいる。」
琉球大学二宮あみさん（２３）「貧困問題、子どもに対する教育問題だったり、いろんな問題が積み重なっているので」
金平「やっぱ基地反対みたいに言ってる人に対して何かアレルギーとかやだなーとか」
二宮さん「思います。すごく。辺野古でツイッターとかで動画で辺野古で基地反対って大きい声出してやってい

るものだったり、車両入れさせないように包囲しているようなの見ていると、やっぱりそういうこと起こっているという事実にすごく胸が痛いと思うし、もうやめようよというのが本音です。」

中立的な若者を取り上げた箇所では沖縄国際大学の学生が「いろんな情報が入りすぎる。特に今 SNS の時代だから、ツイッターなり、インスタなり、そういう嫌な部分、相手をけなすのが多すぎて、そう、それが多すぎて結局、誰に入れたらいいんだろうというのが人それぞれみんなあったと思うし、自分も実際なったし、でもだからちゃんと自分たちで調べようにも、何が正しいのかわからないから」とコメントする場面が取り上げられていた。

照屋教授の見解を紹介するシーンでは以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「政治学が専門の沖縄国際大学、照屋寛之教授は」

照屋教授「ネット上でですね、辺野古に基地を造らなんと尖閣を中国に取られてしまうよとか学生から言われたことがあるんですよ。先生大丈夫ですかって。そのネットの情報をうのみにしてしまって、それを学生から聞いた時ドキッとしますよね。いやそうじゃないんだよって」

ナレ「そのうえで今の若者についてこう話す。」

照屋教授「若者がどんどん保守化してきたのかなと保守化の要因が何かというとね、やはり一つは生活保守主義かなという感じがしますね。自分たちの生活がうまくできてればそれで良いじゃないかな、というよな生活保守主義の部分も出てきているのかなぁって感じがしますね。まあ今経済的にもそう悪くないし、アルバイトも探せばあると」

公明党・創価学会に焦点を当てた箇所ではナレーションによる「玉城氏の集会ではためく三色旗。青、黄、赤はそれぞれ、『平和』『栄光』『勝利』を表している。公明党の支持母体、創価学会のシンボルだ。党が推薦する佐喜眞氏ではなく、対立候補の玉城氏の応援に駆け付けた学会員たちだった。公明党の沖縄県本部は普天間基地の辺野古移設に反対の立場だ。しかし今回の知事選では、辺野古の新基地建設を棚上げした形で、佐喜眞氏の推薦を決めた。」や「県外からも多くの公明党幹部や創価学会員が沖縄県入りして、佐喜眞氏を支援した。しかし、出口調査では公明党支持者の３２％が玉城氏に票を投じていた。」という説明がなされた他、公明党の山口那津男代表の「佐喜眞淳さんを公明党は全力で応援させていただきます。」という選挙での応援演説や、公明党沖縄県本部代表の金城勉県議の「総合的な観点から、今回は佐喜眞さんの推薦ということにいたしましたけれども、県民の審判は非常に厳しかったという風に受け止めております。」という選挙後のコメントが取り上げられていた。

また、創価学会員で玉城氏を支持した安里善好さんへのインタビューが取り上げられていた。

ナレ「創価学会に入って 59 年になる安里善好さん 82 歳。安里さんも玉城氏を支持した一人だ。」

創価学会員安里善好さん「公明党っつうのはもう創価学会とかけ離れた方向にすすみつつある。もうだんだんだんだん自民党に吸い取られて、巻き込まれて、ただ票稼ぎ、自民党に対する票稼ぎの団体にだんだん成り下がっている。これがけしからん。」

ナレ「学会の集まりでは票を集めれば功徳が得られる。と諭されるという。安里さんは平和と福祉を掲げる公明党がなぜ基地を容認する他党の候補を支持するよう誘導するのか？と新聞の投書などで何年も前から訴えてきた。」

安里「あれを見てね、遠くは名護あたりから「安里さんあなたが言うことは正当だよ」ということを何年か前から自分は 10 名ほどから連絡を受けました。この選挙中にもある幹部から「安里さんあんたが言うのがあたりだよ。あまり押し付けられたらね、たまったもんじゃないね」というような話も聞きました。電話もありました。」

ナレ「沖縄戦で 8 歳で戦争孤児となった安里さん。平和に対する思いは人一倍強い。」

安里さん「防衛、防衛というときりがない。だから持たなければ持たないで済ませられると思うんですよ。それ

から武器を造り合って平和というのはありえないと思う。半永久的に沖縄に米軍基地をを押し込んでおけば、今さっき申し上げましたように、本土の住民の安全は守られる。本土の住民はますます高枕できるというようになってくると思う。なるように沖縄に押し付けようとしてくると思う。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「組織戦と勝手連。選挙の戦いが両陣営ほんとに対照的でしたからね。ここまで大きな差をつけるとはちょっと想像を超えていました。」

金平「みんな正直というと、私はまったく別の結果を予想してたんでほんとにダメだと思うんですが、地元の記者たちも、これ程差がつくっていうのは予想してなかったようで、その意味ではまあサプライズだったですね。そういう中で玉城デニー候補の陣営の若者達の動向ってのは取材すると、すごく勢いがあってですね、あのネガティブキャンペーンに対して、ポジティブキャンペーンというのはって、デニってるとかね、デニティーていうあの T シャツですよね。あれとか、デニーナイトというような DJ をやってもらったりなんかねこうちょっと昔のオバマ大統領誕生のときのキャンペーンを思い出しましたですけれどね」

日下部「あのーそもそも沖縄の選挙というのは沖縄知事選挙ってのは注目されているのは、国の在り方をですね決めるような重要な問題が問われている。しかもその問題っていうのは沖縄の人が欲したわけでもなくて、押し付けられたもの。しかもですね。安全保障、外交と言って沖縄の人たちだけではどうしようもない問題なんですね。だからこそ選挙を通じて、我々本土の人、政府に向けて思いを伝えようと思ったんですけれども、こういった思いはほとんど我々にちゃんと受け止めてないんじゃないかって思いがして、仕方ないんですけどね。」

金平「おっしゃる通りですね。私も同感ですけど、沖縄県知事選挙っていうのはこれだけね特別な意味を負わされていること自体、私たちが本土の人間が考えなければいけないんだと思いますが、これからデニー知事にとってはですねいばらの道が始まるんですが、少なくとも、翁長知事の時のように 4 か月会わないとかね、ああいう子供じみたことはやめたほうがいいと思いますね。火曜日、来週火曜日 9 日に翁長前知事の県民葬があるんですけども、そこは安倍総理は欠席して、菅官房長官が出席するようですけども、なんとか対話の道っていうのが開いてほしいですね。」

これまでさんざん沖縄県の問題を特集で取り上げ、他の都道府県の知事選挙と比べても異例の頻度で特集を組んでおきながら、

スタジオでは日下部キャスター「沖縄知事選挙ってのは注目されている」というコメントを、金平キャスターは「沖縄県知事選挙っていうのはこれだけね特別な意味を負わされている」というコメントをしていたが、特集の中では終始、沖縄の現地の様子のみが取り上げられており、本土の人間に対する取材というのは全く出てこなかったので、本土の人間からも沖縄知事選挙が注目されているであるとか、本土の人間にとっても特別な意味を持っているということについては全く検証されていなかった。

しかし、他方で日下部キャスターは「安全保障、外交と言って沖縄の人たちだけではどうしようもない問題なんですね。だからこそ選挙を通じて、我々本土の人、政府に向けて思いを伝えようと思ったんですけれども、こういった思いはほとんど我々にちゃんと受け止めてないんじゃないかって思いがして、仕方ない」とコメントしていたが、ここでは率直に本土の人間の沖縄に対して無関心であるという日下部キャスター自身の実感を吐露しており、金平キャスターもそれに対して「おっしゃる通りですね。私も同感」と同調し、「私たちが本土の人間が考えなければいけない」とまでコメントしているが、これも本土に生きる市井の民は沖縄のことなどほとんど考えていないのではないか、という金平キャスターの抱いている実感の現れではなかろうか。そうであれば、「沖縄知事選挙ってのは注目されている」や「沖縄県知事選挙っていうのはこれだけね特別な意味を負わされている」というのは市井の民の感覚からは遊離した政治業界や報道業界の関係者の間に特有の受け止め方、あるいは金平

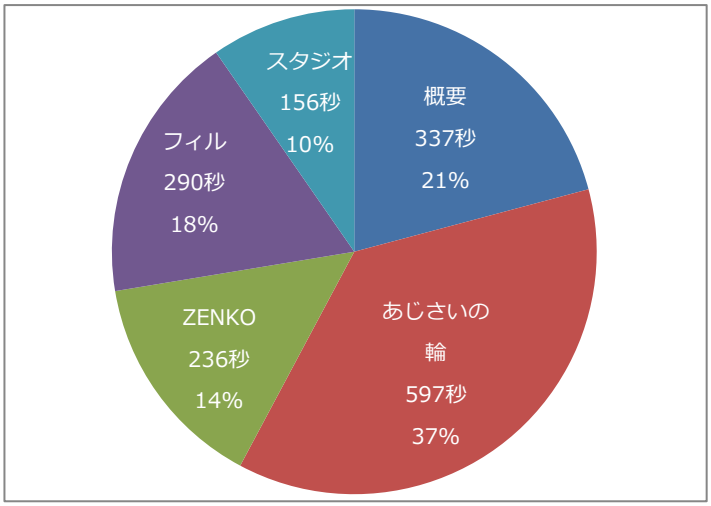
キャスターや日下部キャスターの願望に過ぎないとも言えそうである。

そうした問題を何度も何度も特集で取り上げ、他の都道府県知事選挙と比べても異例の頻度で特集を組んでおきながら、スタジオではさも「沖縄知事選挙ってのは注目されている」ということが前提としてあるかの如きコメントを伴い沖縄県知事選挙を全国的なアジェンダに設定しようとする番組の作りはマッチポンプといっても過言ではないばかりか、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」および同三号「報道は事実をまげないですること」という点からも非常に問題のあるものといえるだろう。

・【特集】障害者雇用：結論→

岡山県で働く障害者が一斉に解雇されるという事態が相次いで、中には刑事事件になるケースも出ていること、一斉解雇の裏に潜む闇についての 1 年以上にわたる調査報道が特集として取り上げられた。

この特集では概要の説明、あじさいの輪グループ関係者への取材、ZENKO 関係者への取材、フィル関係者への取材、特集の VTR を承けてのスタジオでのやり取りという場面にわけられた。この特集に当てられた時間は 1616 秒で、それぞれの場面への時間配分は以下の通りであった。



概要では A 型事業所制度について以下に朱記したようにナレーションによる説明や関係者による説明および A 型事業所で作る協議会に参加する A 型事業所の経営者からのあじさいグループへの評価が取り上げられていた。

ナレ「あじさいグループ が利益と給与の差額を埋めるため、利用したのが国などから出る補助金だ。障害者を 200 人以上雇用していれば、年間数億円に上るとみられる。給与を支払っても、さらに余剰金が生まれる。専門家はこの補助金制度に問題があると指摘する。」

慶応義塾大学中島隆信教授「結局制度が補助金もらって、利益を懐に入れられるっていう制度になっちゃってるから、補助金目当てで参入してくるってってもまあ、不思議ではないでしょうね。まあ厚労省の作った A 型の制度ですよね。そこに問題がある。」

ナレ「これは A 型事業所への参入を進めるコンサルタント会社のホームページだ。助成金で安定経営。収入の 9 割が公費などとうたっている。こうした実態を監督官庁である厚生労働省も把握していた。」

厚生労働省　障害福祉課服部剛さん「介護の世界でもそうでしたけど、ビジネスのコンサルとか、そういうなんか金儲けに走ってしまうとかそういう若干あるんですけど、あの 27 年 9 月にも通知を出していますし、まあそうとはいえ、なかなか状況が改善されていないというところを、やっぱりそこはできれば、ちゃんと指定権者の方で見ていただく、っていうことをしていただかないととは思いますね。」

ナレ「A 型事業所の事業者を指定するのは、県あるいは政令市や中核市、あじさいグループの 5 つの事業所につ

いては倉敷市が指定していた。」
倉敷市障がい福祉部　光田武道さん「一般的に見た指定したところもみんなお話、指摘されるんですけど、その後の事業所の指導については、実地指導という形で指導させていただきますが。指定拒否というのは原則ないので、こちら側の責任という風には考えては無いです。」
ナレ「この問題を追及してきた倉敷市の田辺市議は」
あじさい問題を追及田辺昭夫倉敷市議「A 型事業所ってのは補助金頼みの運営が問題だったって言われるんですけど、私はそうではなくて、補助金目当ての事業だと、頼みじゃなくて目当て。つまり補助金をもらうそのことを目的にしてこの事業、だから別に障害者の事業ではなくてもよかったわけですよ。彼らにしたら。ただこれはおいしい。これだけの大した事業をやらなくても、これだけのお金が入ってくるっていうところに目をつけて、これで人稼ぎしようっていう風にもう。だから福祉の世界とは全然僕は違うと思うんです。」
ナレ「A 型事業所で作る協議会では、定期的に集まり、情報交換や勉強会などを行っているが、あじさいグループは加盟していなかった。ほかの事業所の経営者はあじさいグループの運営方針に疑問を持っていたという。」
"A 型事業所の経営者「人材育成をするのが仕事なんじゃないかなと僕は思うんですけど、そうじゃないような。感じに見えるんで、もう論外です。論外でしょう。なんであんなバカでかいことをやるのか私らには理解できません」
ナレ「法改正の際、A 型事業所導入の制度設計に関わった松永さんは補助金目当ての事業者が参入する可能性があると、当時から警鐘を鳴らしていた。」
元 A 型事業移行推進研究会　松永正昭事務局長「経営目標や経営理念をどのように確立するかなどの視点も盛り込む必要があります。と公金が入っても同じ理念でやっていかなければいけない。短時間でですね、お金だけ出して人を集めて支援費を払ってそういうことでは全くダメですよっていうのはですね」

あじさいの輪関係者への取材では以下に朱記した 4 つの場面が取り上げられていた。
【シーン１】
ナレ「突然手渡された解雇予告通知書。去年 6 月、何の説明もないまま、この 1 枚の紙で多くの障害者が仕事を失った。心の障害と折り合いをつけながら働いていた 30 代の女性も。」
30 代女性「一体何が起こったのかと。ショックもありますし、怒りもありますし、一体だれが悪いんですかと。」
ナレ「通知を出したのは岡山県倉敷市にある一般社団法人あじあいの輪。突然解雇されることになった障害者は 224 人に上る。3 か月後グループ企業とともに経営破綻した。」
解雇された障害者「ショックでしたよ。真っ暗になって、つぎどうしようか思って。」
「不安ですねやっぱり。不安な気持ちでね寝られない日が」

【シーン２】
ナレ「あじさいグループは 2014 年に倉敷市から指定を受ける。もっとも多い時には 8 つの A 型事業所を運営していた。これはあじさいグループが配布していたチラシだ。『障害者の方新規大募集』『入社祝い金 50000 円進呈』などと甘い誘い文句が浮かぶ。解雇された 40 代の男性はこう話す。」
男性「このチラシ、新聞にはいっとって、みたから、これ行こう思って。親とか友達にも言われてましたもん。うまいこと書きすぎじゃねえか。こんなの絶対いいようにいかんだろう、本当にうまくいってない。」
ナレ「ほとんどの A 型事業所は定員 20 人以下だが、あじさいグループは 60 人規模の事業所を次々と開設。雇用された障害者の中には仕事に適応できない人もいたという。」

男性「その人ｈｓが仕事をせんのに、本当にずっとほったらかしで居させてました。」
スタッフ「何をしているんですか？仕事」
男性「本当に何もしていない。ぼーっとしたり、それでも給料は普通に出ていました。みんなと一緒の金額が。ただいてほしいだけですよね。そこが助成金もう目当てだと思ったし。」"
ナレ「さらに仕事の内容に疑問を感じる障害者もいた。」
男性「まあフルーツネットを折るんですけどど」
ナレ「ほとんどが果物に付けるカバー。フルーツネットを折る軽作業で 1 時間働いても、利益は 20 円ほどにしかならない。」
男性「あじさいの時給は 757 円・」
スタッフ「時給と見合う仕事だと、思われました？」
男性「じゃないと思います。給料にはならないですよ。」

【シーン３】
ナレ「大量解雇についてあじさいグループの経営陣を直撃した。」
あじさいの輪　楠田　崇理事「何撮ったんだ見してみいそれ。おい。何とったの見してみいはよ。見してみいはよ。はよ出せや早く。」
ナレ「あじさいグループの楠田崇理事に話を聞こうとしたが、」
"楠田理事「わしら犯罪者じゃねえからな。おまえ。ちがうからな。のぉ。犯罪者みたいな扱いすなよ。おめえ。なんらわしらが犯罪したんや。わし等が。いってみいや。おぉ。ほりゃ。」
スタッフ「それとは逆に全く問題はないという風におもわれていますか？今。」"
楠田理事「犯罪者かどうか聞いとるんやおめえ犯罪者かよ？」
スタッフ「問題が、犯罪者かどうかではなくて、問題があったのか無かったというのはどうかは、いかがですか？」
楠田「何が問題なんや、いってみ？何がききたいん？何が問題なん？」
ナレ「粘り強く説明を求めていくと、」
楠田理事「そりゃもう、本当にまともにやって結果として資金繰り、要するにお金に困って、もう閉めないといけないから、その前にちゃんと利用者の人には何が何でも給料を払わんといけん。たまたまそれが極端な行動となって、それで今公費をだまし取ったとかね。補助金がなくなったから要するに特開金がなくなったから切ったとかもうそんなことばっかりでしょう。」
ナレ「こう弁解する楠田理事だが、一方的に解雇された障害者は」
40 代の障害者「お金としか見ていなかった。仕事の道具というか、食いものにしか見ていなかったのではないですかね。」
30 代の障害者「福祉の心があったのかどうか。ないとおもいますよ。お金何とかしなければ、お金なんとかしなければ。その考えだけでしょうどうせ。利用者一人一人お金にしか見えなかったのでしょう絶対に。許せないですよ。こんなの」
ナレ「あじさいグループのによる障害者一斉解雇の波紋が広がる中、同じ倉敷市で今年 3 月新たな問題が起きる。真備町に本社を置くフィルが経営破綻し、運営していた 3 つの A 型事業所を突然閉鎖したのだ。給与未払いのまま、障害者 171 人全員を解雇した。」
"解雇された障害者「明日付で事業停止で解雇されます。ただそれだけです。急でした。でも生活が懸かってるんで、それに給料も振り込まれていないみたいなので」

【シーン４】
ナレ「障害者を一斉に解雇したあじさいグループ。先月事態が大きく動いた。9 月 4 日 JNN のカメラがとらえた倉敷警察署に入るあじさいグループの楠田崇理事。この直後、助成金をだまし取った詐欺の疑いで逮捕されたのだ。楠田理事について元従業員はこう語る。」
あじさいグループの元従業員「3 人の理事の中で中心。気が短くて、すぐ大きな声を出して、言葉がちょっと乱暴になる。」
ナレ「楠田理事は経理担当の事務員に命じて障害者の労働時間を水増しし、雇用を支援する独立行政法人に助成金を不正に請求した疑いがもたれている。警察は楠田理事の認否について明らかにしていないが、だまし取った総額は 1 億 3000 万円を超えるとみている。」
あじさいグループの元従業員「もう当たり前のように理事からの指示なので、出勤簿の操作というものをしてました。規定の時間を達しないと補助金というのがもらえないので、休んだりとかってしている人に対しても、時間数を水増しして、既定の時間にして請求してました。」
"スタッフ「あじさいグループってのはどうだったかと思いますか？」
あじさいグループの元従業員「障害者を利用しただけだと思います。」"
ナレ「一斉解雇をきっかけに捜査のメスが入ったあじさいグループ。国などからの補助金についても、警察は関心をもって捜査している。」
解雇された 30 代の障害者「もしかしてこれ氷山の一角かもしれないなと思っている今までまあいろいろな閉鎖問題が全国各地でね、起こっているわけですから、もしかするとほかのところでも、そういった方々がいるかもしれないので、まあやっぱり追及していただければと」

ZENKO 関係者への取材では以下に朱記した VTR が取り上げられていた。
ナレ「A 型事業所とはそもそもどういうものなのか障害者の自立支援で実績を上げてきた岡山市にある ZENKO を取材した。」
ZENKO 従業員「ファイト！一発！」
ナレ「大型の乾燥機からカーテンを取り出し、手際よくプレスして折りたたんでいく。ZENKO は業務用のクリーニングを行っている。作業している 20 人全員が障害者だ。」
ZENKO 萩原義文副理「仕事はどうですか？」
男性「いいです」
ZENKO 萩原義文副理事長「いいですか？」
萩原氏「彼はですね。あの一働いてお母さんを北海道旅行に連れて行くのが夢だった。で、お金をためて、それで井上さんお母さんをどうしたのかな？」
井上さん「一緒に連れて行った」
萩原氏「どこに連れて行った」
井上さん「北海道」
ナレ「A 型事業所は以前は福祉工場と呼ばれ、社会福祉法人だけが運営できた。2006 年に障害者自立支援法が施行されて。一般企業も同じような形態で運営できるようになり、全国で増え続けている。職業指導員など、専門の職員が配置されているのが特徴だ。」
職員「これを書いておけば、いちいち聞きに来なくても選択の係の人が自分から自発的に作業ができるので、」

ナレ「職員は一切手伝わず、作業をするのはあくまでも障害者だ。最低賃金も保障されている。スキルアップすることで、いずれは一般企業へ就職の道も開ける。それこそが A 型事業所本来の役割だ。」
職員「いろんなものなんでもできてます。できるようにもなります。」
萩原氏「A 型事業というのはですね、障害者が自ら働いて、社会で役立つ人にしてくださいっていうのでこの仕事があるわけです。だから社会へでて、通用する人にするのが責務です。」
ナレ「A 型事業所の運営には、国から障害者一人当たり、1 日５０００円の給付金や 3 年間で、最大 240 万円の助成金など、さまざまな補助金が支払われる。厚生労働省は去年 4 月、省令を改正し、障害者の給与に直接宛ててはならないと明文化したが、ZENKO はそれ以前から補助金を障害者の給与に当てず、健全経営を行ってきた。」
萩原氏「事業をやって得たお金が約 5０００万円。助成金は別にして。障害者の給与が約 1850 万円ですから、余剰金が 475 万円。事業をするには適正なものがいくつかあると思うんですね。仕事の量。職員の資質。それから利用者の数。というですね。やっぱりそのバランスの問題だと思いますね。」
ナレ「全国の A 型事業所協議会の副理事長も務める、萩原さんはあじさいグループについてこう語る。」
萩原さん「仕事がないのに、利用者が多かった。利用者が 10 人ならやれたかもわかりません。それが 200 人とかあるいは 250 人とかいうですねとてつもない、想像もつかないその人を労働者として雇用しているっていうことですね。無責任極まりないですね。」

フィル関係者への取材では以下に朱記した場面が取り上げられていた。
ナレ「破綻から 6 日フィルの岡本健治社長が会見を開いた。」
岡本健治社長「A 型事業を始めて、障害者の方の雇用の場を作り、そしてそこで収益を上げて最終的に一般社会への結びつきををどう図っていくんだというそこの一点を考えてきましたので、そこを考え続けてずっと最後の最後までやってきた。」
ナレ「こう語る岡本社長だが、会社の実態について元社員は。」
フィルの元社員「入社をして会社の説明があった時、利用者さんのことをお客様と思って接してください。作業なんかどうでもいいんですよ。何をしてくれててもいいんですよ。そこにいてくれれば。新しい人が増えればそれで補助金増えるわけですから。」
ナレ「フィルでは一時、全国でも最大規模、300 人以上の障害者が働いていた。大量に雇用し、一斉に解雇するのはあじさいグループと同じだ。甘い誘い文句で障害者を集めたあじさいグループ。フィルのチラシもほぼ同じ。岡本社長はあじさいグループとつながりがあったことは否定しない。」
岡本社長「あじさいの理事の方とは、いろいろなことでご相談申し上げています。あじさいのグループは非常に大きい規模で事業運営をされてまして、そういった事業運営の展開についてですね、非常にご相談申し上げていたような間柄ではあります。」
"記者「考え方も一緒だったんですか？」
岡本社長「私は A 型事業の在り方としてはちょっと一線を画していたのかなと。障害者の方がどうやって収益を上げていくのかっていうところに主眼を置いて今まで、やってきたつもりです。補助金目当てでといろんな方に言われるんですけども、そこについてだけは胸をはって、いやわたしはそのつもりでやってきたんじゃないです。ということはお伝えしたいかなと思います。」"
"ナレ「これに対しフィルの元社員は」
フィルの元社員「これはあのホワイトボードに岡本社長自身が書いたものを私が書き写したものです。各事業所の定員、利用者さんを MAX374 人まで増やすことができますよと。会議の最初に各事業所が何人採用できたの

か、何人不足しているのか、来月以降どうするのかそういう話から始まるんです。どんどんどんどん利用者さんを増やせ、事業収益が上がらない分、利用者を増やせ。そこで儲ける。もうそれしか道はない。」"
スタッフ「その儲けというのは？」
元社員「補助金。事業収益上げられないのでそこを補填するのはそれ以外手がないってなことですね。可能性のある方ってもっとたくさんいたと思うんですよ。それを潰した。申し訳ないとしかないです。」"
ナレ「フィルを解雇された障害者はどうなったのか。一人暮らしの岡孝行さん。交通事故で脊椎を損傷し、杖などがなければ立つこともできない。今は仕事もない。」
岡孝行さん「自分が見る目がなかったのかなと、自分が見る目が無くて、フィルにいっちゃったのか。もう仕方がないかなって。あとはこれを受け止めて、次の就職へステップしとかないと。」
ナレ「フィルではフルーツネットを折る仕事をしていた。障害者向けの求人情報を頼りに次を探しているが、希望する会社はすぐに埋まってしまう。履歴書を書きなおそうとして、職歴の欄で手が止まる。」
岡さん「あのなりますね。自分の中で抹消したい職歴なんで。でもそれを書かないと次には進めないので、」

特集の VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。
膳場「取材した RSK 山陽放送の古川記者です。あのほとんどの A 型事業所っていうのは、まじめに善意で運営しているんでしょうけども、見ていますとこれは国の制度に問題というか弱点がありそうですね。」
古川記者「そうですね、おっしゃるようにですね、ほとんどの A 型事業所というのは障害者のことを考えて真面目に運営されているんですね。どうしてもその一部、補助金を目的にするような事業者があるために、国は規制を詰めるためにこれに対応しているんですね。そうすると真面目に運営している A 型事業所の首を絞めることになっていますんです。まあというのが結局その省令改正でですね、補助金を障害者の給与に直接あててはならない。ということを明文化しましたけれども、じゃあ例えば時給 800 円くらいのところに対して、頑張って 500 円とか 600 円とか、頑張ってそれだけ稼いだ A 型事業者に対しても、これはダメだと、いう形になってしまう可能性がある。そうすると、どんどん障害者が働く場所ってのが無くなってしまうわけですね。」
日下部「解雇された障害者の皆さん今どうなっているんでしょうか？」
古川記者「結局ですね、あじさいグループとかフィルを解雇された方のうちですね、まだ 100 人以上ってのが再就職先が決まってないんですね。で仮に再就職先が決まったとしても、結局そのあじさいグループのとこでですね、フルーツネットとかああいうこう軽作業中心に行っていたのでどうしても本当に利益を上げようとすると、普通の A 型事業所はやっぱりどうしても作業がハードになってくるんですね。そうするとそういうところでは働けないといってですね。結局そのやめてしまったりだとか、もっと悪い場合には外に出れなくなって、家に引きこもってしまうとかそういう障害者の働く意欲まで奪ってしまうという意味で、そういった意味では今回っていうのは大きな問題だと思います。」
金平「してもね、本来監督・チェックの役割があるはずの行政の側がね、まるで他人事みたいな口調に私には聞こえたんですけれども、」
古川記者「そもそもですね、私はこの制度自体がその福祉ということに対してですね、性善説をもとにして作られているんですね。だから結局そのそういう隙間をついてですね、これは悪しき A 型という表現をしたりするんですけど、そういった事業所ってのは全国にあるといわれています。これに対して県とか市はですね、指導監査を行って問題があればですね、そういう、こう、指定を取り消すことも可能なんですけども、結局その指導自体が、およそ 3 年に 1 回とかほとんどできていなかったという現状があるんですね。そういう意味ではですね事業所の経営状況をしっかりチェックしたりだとか、もっと頻繁に通ってですね、そういう事業所がどういう考え方

で運営しているのか、そういったものをですね、顔の見える関係を作ってやっていくっていうのが重要だと思います。」

この特集については放送法の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】沖縄県知事に玉城デニー氏：結論→印象操作に該当するおそれあり

スタジオでの膳場キャスターの「組織戦と勝手連。選挙の戦いが両陣営ほんとに対照的でしたからね。ここまで大きな差をつけるとはちょっと想像を超えていました。」とコメントしていたが、この検証でも度々指摘しているように、実際の沖縄県知事選挙での玉城陣営は野党共闘が功を奏し「オール沖縄」としての候補一本化に成功したのみならず、実際の選挙戦でも政党色を抑え草の根選挙が戦略的に演出されていた。

そもそも隙あらば自分の顔と名前を売ろうとする公選政治家に対して抑制・自重を求め、それが実効を奏しているということ自体が相当程度しっかりとした組織が機能していることの現れであると言える。勝手連が玉城候補を支援していたということは事実ではあるが、実際に勝手連として玉城氏を支援した若者は金平キャスターからの「選対から怒られたことっていっぱいあった？」という質問に対して「もうたくさんありました。山のように。お前らのせいで負けるっていっぱい言われましたよ。」と答えており、その答えからも実際には玉城陣営も組織として戦っていたということが伺える。

実際には玉城候補も組織戦を戦っていたのにもかかわらず、あたかも組織戦の佐喜眞陣営に対して玉城陣営は勝手連で戦ったという、おおよそ実情とはかけ離れた印象を抱かせるような前場キャスターの発言は印象操作に該当する可能性が高い。

検証者所感

・オープニング

相変わらず報道本編とは無関係に金平キャスターの個人的な感想を垂れ流すシーンだった。他のノーベル賞とは異なりノーベル平和賞は政治的思惑の介在する面も強いので、「世界的な広がりを見せた Metoo 運動が受賞の後押しとなったとの声もあります」という説も全くのデタラメではないだろうが、それは他の説を開陳した場合でも、例えば「IS、イスラム国での性暴力の実態を告発したことが対グローバルジハードの文脈から支持が得られたことが受賞の後押しとなった」という説を唱えたとしても、それなりにもっともらしく聞こえてしまうだろう。

番組名にも「報道」と関しているのだから、やはりスタジオでのコメントも床屋政談のような言いっ放しではなく、検証に耐えうるものであると示してもらわなければ、やはり物足りないだろう。

・インドネシア地震と自衛隊

目的がインドネシア地震への支援とはいえ自衛隊の海外派遣であることにはなんら変わるところはないが、番組中では特に異論などが紹介されることもなく、淡々と報じられていたのが印象的だった。

・【特集】沖縄県知事に玉城デニー氏

VTR で玉城知事は「これだけ選挙でも新基地建設はダメだというようなことが、度重ねて表明されているにも関わらず、日本政府がとっているこの民主主義を破壊するような違法な工事のやり方というのを我々は認められないということを、アメリカや世界に対して、我々は民主主義国家の一地域のその自治体として、こういう風に

判断をし、住民もそういうふうな声を出していると私たち沖縄県民がとっているこの考え方と手法はすべて皆さんと共有できる民主主義の普遍的な価値に基づいてものであるということをしっかりと訴えていって、その世界の世論を私たちの味方につけたいという風に考えております。」とコメントしており、こうした民主主義論について誰も批判を加えていなかったが、他方で日本政府も国政選挙の結果に基礎づけられた、民主的正当性を持つものである。また、民主主義的な価値観から導かれる集団の意思決定方法は多数決であり、一人ひとりを権利の上で平等と見做すのであればその多数決は頭数多数決ということになる。そうであれば、沖縄を民主主義国家日本の一地域一自治体と規定する以上は、沖縄県の対応には沖縄の民主的正当性がある一方で、日本政府の対応にも日本全体での民主的正当性があるといえる。むしろ民主的正当性という点でいえば、頭数でまさる日本政府のほうに分があるという捉え方も可能であろう。そうではなく、玉城新知事や沖縄が掲げるのは民主主義というよりは、地方自治であるとか住民自治、国と地方の役割分担および公権力の役割・範囲の規定、あるいは頭数多数決に加えて特別な手続きを経ることを規定するような立憲主義ではなかろうか。沖縄が日本から分離独立するのであればいざしれず、沖縄を日本という民主主義国家の一地域・一自治体と規定する以上は民主主義という価値観だけで、新基地建設反対を訴えるのはやや論理として弱いのではなかろうか。

照屋教授の「ネット上でですね、辺野古に基地を造らなんと尖閣を中国に取られてしまうよとか学生から言われたことがあるんですよ。先生大丈夫ですかって。そのネットの情報をうのみにしてしまって、それを学生から聞いた時ドキッとしますよね。いやそうじゃないんだよって」というコメントには、ネットではそうした情報が出回っているのかという驚きを覚えた。また、同じく照屋教授の「若者がどんどん保守化してきたのかなと保守化の要因が何かというとね、やはり一つは生活保守主義かなという感じがしますね。自分たちの生活がうまくできてればそれで良いじゃないかな、というよな生活保守主義の部分も出てきているのかなぁって感じがしますね。まあ今経済的にもそう悪くないし、アルバイトも探せばあると」というコメントは、いわゆる政治学の文脈での「保守」とはずいぶんと違った響きを受けたとともに、「生活保守主義」や「若者の保守化」などという政治的な志向に関する用語を明確な定義もなしにずいぶんと粗雑に扱うものだなぁという印象を受けた。

・【特集】障害者雇用

スタジオでの議論は現状の制度のあり方や運用および補助金目当ての事業者については問題視しながらも、他方で本当に利益をあげようとする普通の A 型事業所の問題も指摘していた。しかし、そもそも A 型事業所であるとか、こうした障害者就労施設の存在自体を福祉という観点から是としていた。しかし、県や市が指導監査を行いモニタリングを強化しながらもこうした A 型事業所の補助金は続けていくとすれば、そのコストは今以上に膨大なものとなり、それは税負担という形で国民や住民にのしかかってくるが、そうした点への考慮はあまり見られなかった。しかし、そもそも補助金制度を設けた時点で、どうしても補助金目当ての事業者の参入というのは生じうるだろうし、そうした事業者に対して多くの人の納得をとりつけつつ事前に排除するというのは難しいだろう。また、当初は補助金目当てではなく真面目に事業に参入したとしても、一度補助金を受け取ってしまっては補助金収入を前提とした経営、つまり補助金なしでは成り立たないような事業と化してしまうおそれもあるわけで、そもそも補助金を前提とした就労支援型の福祉とは異なる形の福祉というのを論じてもよいのではないだろうか。